

Mさん

丸山弘子

公園は梅の香に満つ「みちしるべ」「冬至梅」などよき名を持ってり

千両の朱き実鳥らの餌となり正月の庭いろどり少なし

こんなにも寒かつたのか厚く張りしメダカの瓶の氷引き上ぐ

陽あたりのよき内科医の門先に鉢のノボタンながく咲きをり

何を銜へ歩む鳥か駐輪場の屋根の波板音の激しき

床に落ちしゼムクリップ雫のごとしよと短歌に詠みたる女思<sup>ひと</sup>ひ出づ

夫の一周忌むかへる友の体重の戻りしを聞き共によるこぶ

われに気づき犬は一瞬止りしが主人を追ひて朝を駆けゆく

グループホームに入りて安定したるとふ家族の便りにこころ安らぐ

添へられし食事会の写真Mさんの穏<sup>おだ</sup>しき顔に安堵するなり